

「ECO-DRR による森林グリーンインフラ整備の推進」 調査研究事業実施計画

気候変動枠組み条約のパリ協定の下で、CO2 排出削減及び吸収源対策と併せて、気候変動に対しレジリエントな災害防止等の適応策の実施が強く求められているが、その中で生態系を活用した災害防止対策 (ECO-DRR) が大きな注目を集めている。海外においては、ECO-DRR に基づく防災事業として、JICA による北マケドニア共和国の治山事業や、森林総合研究所 REDD プラス・海外森林防災研究開発センターによる東南アジア諸国のマングローブ林の整備などが実施されている。我が国の治山事業は森林の公益的機能を発揮するために講じられる事業であり、本来的に ECO-DRR の要素を強く有しているものであるが、改めて ECO-DRR の観点からそのあり方を見直すとともに、ECO-DRR として推奨される技術実例の集積・分析を行い、その結果を踏まえて、新たな視点に立った治山技術を再構築するとともに、その成果を広く森林技術者へ普及啓発することとする。

公益社団法人森林・自然環境技術教育研究センター（以下「センター」という。）に ECO-DRR による森林グリーンインフラ整備検証委員会（以下「検証委員会」という。）を置き、ECO-DRR による森林グリーンインフラ整備検証事業を実施する。

(1) 調査研究

① ECO-DRR による森林グリーンインフラ整備の概念整理

ECO-DRR の考え方を内外の文献収集及び分析により明確化にするとともに、基本的な整備方針を作成する。

② 治山事業における ECO-DRR の整備手法の検討

① による基本的な整備方針に基づいて、治山事業における ECO-DRR の整備手法を検討し、その結果に基づく技術マニュアルを作成する。

③ ECO-DRR による森林グリーンインフラ整備の将来的展開

(2) で収集した ECO-DRR による森林グリーンインフラの実例と②で作成した技術マニュアルを比較検討したうえで、その将来的展開方向を提示する。

(2) ECO-DRR による森林グリーンインフラ整備実例集の作成

全国で実施されている ECO-DRR による森林グリーンインフラ整備の実例を集積・分類するとともに、その成果を実務者の参考となる実例集として取りまとめる。

(3) ECO-DRR による森林グリーンインフラ整備手法の普及啓発

上記(1)の研究開発の成果及び上記(2)で作成した実例集を印刷製本し、広く普及啓発するとともに、センターの森林分野 CPD と連携して研修会等の開催、教材の作成を行う。

○ECO-DRR による森林グリーンインフラ整備検証委員会

委員長	石川芳治	東京農工大学名誉教授
委員	一ノ瀬友博	慶応義塾大学環境情報学部教授
委員	太田猛彦	東京大学名誉教授 かわさき市民アカデミー理事長
委員	五味高志	東京農工大学教授
委員	平田泰雅	森林総合研究所 REDD プラス・海外森林防災研究開発センター長
委員	大西満信	アジア航測株式会社総括技師長
委員	榎田充哉	国土防災技術株式会社常任顧問

オブザーバー 林野庁森林整備部治山課 後藤寿也課長補佐

委員会事務局

上河潔	公益社団法人森林・自然環境技術教育研究センター専務理事
田中賢治	国土防災技術株式会社事業本部長
大野亮一	国土防災技術株式会社技術本部技術部部長
上野直哉	国土防災技術株式会社事業本部環境事業部

○事業実施期間

令和4年7月～令和7年6月